

きづな

地域連携情報誌「きづな」 No.18 平成 29 年 2 月 1 日発行

院長新任のご挨拶

院内はもとより地域の先生、介護事業者さんと一緒にあって「患者さん同盟」を築きたい



院長 勝見 泰和

■第一とするのは「安全な医療」

私のライフワークは「安全な医療」です。京都府医師会では、安全医療委員会の副委員長。そして医事紛争処理委員会のメンバーも担当させて頂いております。目覚ましい進歩を遂げる今日の医療ですが、「すべて 100% 治療する」ということは難しく、どんな名医であっても 100% にはなり得ません。それをチームで補い合い、できるだけ 100% に近づけていく、そうした努力を行ってまいります。

ただ、病気を治すのは我々医療者ではなく、実は「患者さんご自身」です。ともすれば医療者は、「自分達が治している」と思いがちですが、実際には患者さんが治るのを支えているだけなのです。手術もその一つの手段でしかありません。謙虚な気持ちで患者さんの考えを尊重し、適切な治療の選択肢を丁寧に説明することが重要です。あくまで患者さん中心ですね。チーム医療の中心は患者さんで、それを医療の専門職が皆で支えていく、それを私は「患者さん同盟」と考えています。

この同盟は病院の中だけを意味するものではありません。地域連携室が窓口となり、開業医の先生や介護事業所の方々のご協力を得て、退院後の暮らしを皆で支えるなど、院外のつながりが重要だと考えています。私自身、介護・在宅分野への理解を広げようとケアマネジャーの資格を 2 年前に取得しました。皆さんと一緒にあって患者同盟を築きたいと考えています。

また、当院が地域に果たす役割として、外来医療を提供することも重要です。内科・外科で 17 科を標榜しているほか、糖尿病外来や甲状腺外来など 6 つの専門外来を開設しています。なかでもリウマチセンターは専門医 4 人を配置する全国でも有数の外来です。多数の専門外来に加え、私自身も「手の外科」を専門とする整形外科医であり、当院の特色ある陣容を盛り立てていく考えです。さらに地域に貢献する病院として努力致します。今後とも皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

勝見泰和院長 プロフィール

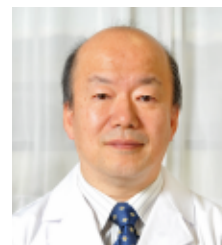


専門は「手の外科」です
できるだけ手術跡を小さくする
最先端の関節鏡手術を
行っています

日本整形外科学会：専門医
日本リハビリテーション医学会：専門医・指導医
日本手の外科学会：専門医・代議員・理事
中部日本整災学会：評議員
末梢神経学会：評議員
日本生体電気・物理刺激研究会：幹事

1974年 京都府立医科大学卒業、同年京都府立医科大学整形外科学教室
1976年 公立南丹病院整形外科医員
1977年 松下病院整形外科医員
1980年 京都府立医科大学整形外科学教室修練医
同年オーストラリア留学(マイクロサージェリー及び手の外科研究)
1981年 京都府立医科大学整形外科学教室修練医
1982年 済生会京都病院整形外科医員
1983年 京都府立医科大学整形外科学教室 助手
1988年 京都府立医科大学整形外科学教室 講師
1989年 明治鍼灸大学整形外科学教室 教授
2004年 明治鍼灸大学付属病院 副院長
2007年 宇治武田病院 院長就任
2017年 十条武田リハビリテーション病院 院長就任

副院長 新任のご挨拶



副院長 辻 吉郎

患者さんの個性や背景にも配慮し コミュニケーションを大切にした医療を提供

■専門チームの一員としてリハビリを提供

1月から副院長として就任した辻吉郎です。京都生まれの京都市育ちで、30年以上、整形外科の専門医として、急性期から慢性期の患者さんの治療に従事してきました。このたび、骨粗鬆症を基礎疾患として骨折に至った患者さんの日常生活の不自由さを少しでも改善するお手伝いが出来ればと考え、リハビリテーション科に転科しました。

当院では、主に脳梗塞や脳出血、大腿骨頸部骨折などの急性期治療を終えられた患者さんを対象とした「回復期リハビリテーション」を担当します。リハビリテーション専門医や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、専門家チームの一員となり、患者さんの心身のご回復を支援させていただきます。

■分かりやすい言葉を心がけます

私が患者さんに接する際に大切にしていることは、「できるだけ、分かりやすい言葉で理解してもらおう」ことです。専門用語を避け、できるだけ分かりやすい言葉で説明するように気をつけています。

辻吉郎副院長 プロフィール

1983年 京都府立医科大学附属病院
1989年 社会保険神戸中央病院
1990年 水田整形外科病院
1994年 京都第二赤十字病院
1996年 国立八日市病院
2000年 精華町国民健康保険病院
2003年 西陣病院
2007年 京都府立心身障害者福祉センター
2010年 亀岡市立病院
2017年 十条武田リハビリテーション病院 副院長就任

例えばスポーツ新聞などでは、「半月板の損傷」という言葉をよく目にしますが、実際に半月板がどうなっているかはなかなか分かりませんよね。

半月板の説明をするなら、膝関節のモデルを持ち出して説明しながら、「真ん中が薄くて外側が分厚くなっています。ちょうど競技場の観客席みたいなんです」など、できるだけイメージが伝わりやすくなるように工夫しています。



ただ、そうは言ってもいきなり重要なことを伝えると患者さんがショックを受け、言葉がなかなか耳に入らなくなってしまうこともあります。ですから、優先度の高いことからお伝えするようにしています。どの程度、理解されているのか、その方のおかれている社会的な背景も考え、コミュニケーションを行っています。

患者さんのご理解を得て一緒になって治療方針を立て、「あの先生に診てもらって良かった」と言ってもらえるよう努力を続けてまいります。どうぞ宜しくお願いします。

医療法人財団 医道会

十条武田リハビリテーション病院

〒601-8325 京都市南区吉祥院八反田町 32 番地
TEL : 075-671-2351 (代) FAX : 075-671-2961
URL : <http://www.takedahp.or.jp>

診療科目 内科・循環器内科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科
外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・リハビリテーション科
心療内科・皮膚科・麻酔科・糖尿病内科・リウマチ科
肛門外科・放射線科

受付時間 午前診 8:30～12:00/午後診 12:00～16:00/夜診 16:30～20:00

診療時間 午前診 9:00～12:00/午後診 13:00～16:00/夜診 17:30～20:00

地域連携室より

平素は、当院の診療に多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

私ども地域連携室は、地域の医療機関、保健機関、福祉機関とのより良い連携のもとに診療を進めていきたいと考えております。

今後もスムーズな医療連携が図れるよう努力する所存ですので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

連絡先 TEL 075-671-2523 (直通)
FAX 075-671-2654 (直通)
E-mail renkei-j@takedahp.or.jp